

第 5 学年 道徳学習指導案

(1)主題名 「国際理解，親善」(資料 自作教材「限られた酸素ボンベ」)

(2)主題設定の理由

ねらいとする価値

今日，国際交流も盛んになり，国際理解が重要な課題である。また，国際情勢という面においても緊迫した状態にあり，相手の文化や思想をふまえた国際理解が今後ますます重要になってくる。近年，日本でも NGO などの国際協力の取り組みも活発になっている。このようなことから困っている人々のためにできることをしていきたいという心情を養うことを本時ではねらいたい。

児童の実態

児童たちは，世界にはいろいろな国があり，その経済状況がさまざまであることは知っている。そんな国々の人たちのために，「人に親切にしようとする気持ちを持つ」，「自分たちの生活を見直す」，「募金をする」ことなどを考えとして持っている。社会科の学習や新聞でも，日本が国際的に活動していることは見聞きしている。しかし，それらで活動している人々が，どんな状況で，どんな思いを持って活動しているかということは知らない。緊迫した情勢で活動する人のジレンマを共有し，話し合うことを通して，心から国際協力しようとする素養を養いたい。

(3)資料について

本資料は，国境なき医師団で活動した貫戸朋子さんという人が経験したあるできごとを教材化したものである。貫戸さんは，NGO 国境なき医師団に日本人医師として最初に海外での活動に参加した医師である。国境なき医師団とは，紛争，自然災害，伝染病などに苦しむ人々への医療活動を行うことを目的にした団体である。その活動が行われるのは難民キャンプ，飢餓や自然災害の被災地，医療が行き届かない遠隔地，戦時下の街などで，もちろん，物資の十分な供給は難しく状況下で活動が行われることは少なくない。貫戸さんが経験したあるできごととは，ある日，貫戸さんはお母さんに連れてこられた瀕死の男の子を目の前にする。医師としての目から見て快方の見込みのない患者に貴重な医療物資（酸素）を処方し続けるかどうか迷う。医療物資の在庫は限られており，次回にいつ支給されるかわからないというものである。そんな貫戸さんの直面したジレンマ場面を読み物資料として作成したものである。

(4)価値分析表

(酸素ボンベのスイッチを)切るべきである	スイッチを切るべきでない
第 1 段階 他律的な道徳性	
たった 1 つの命よりたくさんの命が助かるから。	男の子が死んでしまうから。
第 2 段階 個人主義，道具的な道徳性	
そのときの背景を考えれば仕方がない。	たとえ死んでしまおうとしても，命を救う努力はすべき。
第 3 段階 他人的規範の道徳性（対人間の期待，関係性，同調性）	
男の子も自分の命が多くの人に生かされることで喜んでくれる。	たとえたくさんの命とひきかえでも切るべきでない。

第4段階 社会システムの道徳性（良心）	
貴重な医療物資を助かる見込みのない患者に使うことは許されないのでは。	殺人になるのではないか。
第5段階 人権と社会福祉の道徳性	
故郷なき医師団としての役割を果たすためにはそのときに応じて最善の判断を考えないといけない。	瀕死の男の子にも生きていく権利がある。
第6段階 一般的な倫理的原則の道徳性	
貫戸さんの医師としての決断や信念を尊重すべき。	生命は大事なもの。人間の手でそれを終わらせることはいかなる理由があってもしてはいけない。

(5)学習展開

ねらい

ジレンマを検討する討論を通して、

- ・ 状況をより多面的に、より深く考えて意志決定できる道徳的判断力を養う。
- ・ 相手のことを考えて協力しようとする心情を養う。

展 開

時間	主な学習活動	指導上の留意点
0	1. 資料1を読み、主人公の葛藤状況を思い起こす。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">貫戸さんはどうすべきでしょうか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 酸素ポンベのスイッチを切るべきである ・ 酸素ポンベのスイッチを切るべきでない 	貫戸さんの迷いを焦点化してとらえさせ、討論の共通のテーマを確認する。 判断・理由づけの一覧表をまとめておき、それぞれを自分で検討させ、賛成するなら○、反対するなら×を書かせる。
5	2. それぞれの判断・理由づけについて意見や質問を発表する。 酸素ポンベのスイッチを切るべき <ul style="list-style-type: none"> ・ 酸素が少ないから。 ・ 後からの病人やけが人に役立てた方がいいから。 酸素ポンベを切るべきでない <ul style="list-style-type: none"> ・ 助かるかもしれないから。 ・ 切ると殺人になる…。 	それぞれの立場を明らかにさせながら自由な視点から質問や意見を発表させる。 討論の流れに応じて、把握している判断・理由づけをもとに指名する。
20	3. 焦点化された論点について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">人のために尽くすってどんなことでしょうか。</div> 自分だけの気持ちじゃなくて、そのときに考えられることを考えて実行すると言うことが大事。 自分に与えられた役割について責任をはたすことが大事。	本時の発表の内容から論点を整理する。 社会性のより高い段階の考え方にふれさせ、考えを深めさせる。

35	4. 最終的な判断・理由づけをカードに記入する。	最初の判断・理由づけにとらわれなくて、自由に考えてよいことを助言する。
45	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">貫戸さんはどうすべきでしょうか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 酸素ポンベのスイッチを切るべきである ・ 酸素ポンベのスイッチを切るべきでない 	

最初の判断・理由づけにとらわれなくて、自由に考えてよいことを助言する。

「貫戸さんの考え」を配布し、本時をまとめる。

資料 1

「限られた酸素ポンベ」

国境なき医師団。戦争や災害で苦しむ世界の人々を助けるためにできた団体である。フランスの医師達によって1971年に創設された。民族や宗教、政治などがどんなに違っても、医療援助を続けている。貫戸朋子さんは医師としてその団体に活動していた。

貫戸さんは、戦争が始まった地域の真ん中に派遣されてきていた。当然、いつ攻撃されるかわからない、そんな危険と隣り合わせだった。食べ物や医薬品などの物資はなかなか入ってこない。しかし、診療所は診察を受けたい人であふれかえっていた。

ある日、貫戸さんの働く診療所にお母さんに連れてこられた五歳の男の子が来た。「はあーはあー」と苦しそうな息をしていた。目は白目をむき、天井を向いていた。

“もう、助からない・・・。”

医者としての経験や知識が朋子さんにそう確信させた。そのとき手元には酸素ポンベは一本しか残っていなかった。この次にいつ酸素ポンベがもらえるかわからない。

“ああ、これは酸素をとっておきたい”

貫戸さんはその子に酸素マスクをつけたものの、もう切ろう切ろうと思いながら、5秒数える間だけ待とうと考えた。一、二、三、四、...五。男の子の様子は変わらなかった。

資料 2

結局、これには答えはないんじゃないかと思います。その過程のなかでどう考えていくかということすごく大事で、答えはひょっとしたらどちらにもあるかもしれない。その微妙なところにあるかもしれない。わたしにはまだ、イエスもノーもわかりませんし、わからなくてもそれでいいと思います。悩み続けるっていうことが大事なことかな、って思います。